

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(平成27年12月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:110)
2. 調査実施時期 平成27年12月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

4. 企業判断指数の算出方法

[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
(最大値100/最小値-100)

5. 調査結果(回答工場数:99社 / 回答率:90.0%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
H27.3	5	<i>-10</i>	<i>-11</i>	-	-	-
H27.6	-	9	<i>-11</i>	<i>-12</i>	-	-
H27.9	-	-	7	<i>-1</i>	<i>0</i>	-
H27.12	-	-	-	-22	<i>-16</i>	<i>-11</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
当年	190,897	167,965	140,075	-	-	-
(前年)	144,249	169,989	172,959	162,519	190,897	167,965
対前年比	132%	99%	81%	-	-	-

(概況)
原料在庫は減速傾向にあるが、先行きについては若干回復の見通し。

(回答企業の主なコメント)
依然として前年を下回る/冬山造材開始により順調に入荷予定/木質バイオマス関連の動きが不透明で例年通りにいかないかもしれない

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
H27.3	-39	<i>-17</i>	<i>-5</i>	-	-	-
H27.6	-	-61	<i>-44</i>	<i>-22</i>	-	-
H27.9	-	-	-70	<i>-46</i>	<i>-37</i>	-
H27.12	-	-	-	-29	<i>-36</i>	<i>-16</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
当年	196,064	210,535	197,640	-	-	-
(前年)	182,082	208,773	215,499	209,330	196,064	210,535
対前年比	108%	101%	92%	-	-	-

(概況)
荷動きは減速傾向にあるが、先行きについては前年並みの水準となる見通し。

(回答企業の主なコメント)
消費増税の影響で来年度は良くなるか/道外は平年並みの流通/製材はほぼKD化した需給中心。グリーン材は需給緩い挽立減の様子/中国景気後退、アメリカ金利上昇のため先行き不透明

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
H27.3	-7	<i>-18</i>	<i>-26</i>	-	-	-
H27.6	-	9	<i>-11</i>	<i>-19</i>	-	-
H27.9	-	-	4	<i>2</i>	<i>-16</i>	-
H27.12	-	-	-	-12	<i>-22</i>	<i>-22</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
当年	270,850	291,680	269,442	-	-	-
(前年)	225,777	245,464	248,528	222,992	270,850	291,680
対前年比	120%	119%	108%	-	-	-

(概況)
原料在庫は依然として前年を上回る水準となっており、今後も前年を上回るものの前年並みに近づく見通し。

(回答企業の主なコメント)
前年より在庫多いが未利用材の影響で減少の一途/梱包材はNZ材原木価格上昇で関西の価格が変化の可能性/地元企業が地元材を優先的に安く入手できるような施策求む

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
H27.3	11	<i>11</i>	<i>-2</i>	-	-	-
H27.6	-	-43	<i>-45</i>	<i>-23</i>	-	-
H27.9	-	-	-84	<i>-63</i>	<i>-46</i>	-
H27.12	-	-	-	-50	<i>-42</i>	<i>-30</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	H27.1-3	H27.4-6	H27.7-9	H27.10-12	H28.1-3	H28.4-6
当年	280,059	298,058	253,608	-	-	-
(前年)	271,336	318,689	294,446	292,336	280,059	298,058
対前年比	103%	94%	86%	-	-	-

(概況)
荷動きは減速傾向の中、先行きについては若干回復の見通し。

(回答企業の主なコメント)
合板用は動いているが製品は12月ピーク/7~9月受注状況悪かったが10月以降平常に戻りつつある